



旭中だより

学校 HP <https://asahi-j.sagamihara.andteacher.jp/>

令和8年 3月2日発行
令和7年度 第11号
相模原市立 旭 中学校

冬季オリンピックから学ぶ

校長 辻野 宏

2月22日（現地時間）に17日間にわたって熱戦を繰り広げたミラノ・コルティナ冬季五輪が閉幕しました。日本選手団は、過去の記録を大きく上回る24個のメダル（金：5、銀：7、銅：12）を獲得し、見ていた私たちに多くのエネルギーを与えてくれました。やはりスポーツは最高ですね。昔の自分と比較してスポーツをやる機会は減ってきましたが、何歳になっても、スポーツを通じてたくさんの力をもらっています。皆さんは印象に残っているシーンはありましたか。私はテレビで見た選手のインタビューを聞きながら、いくつかの共通点があると感じました。今号ではそれを取り上げ、私たちの考え方にもいかせていけないか考えていきます。

周囲への感謝

まず、最初の共通点、私が聞いたインタビューでこれについて、語らなかった人はいないと思うくらい、『感謝』という言葉もしくは、それと同様の意味をもつ言葉を発していました。競技スポーツのトップレベルにいるアスリートで、自分一人ですべてを成し遂げている人はいないと思います。技術を指導する人、選手の体のケアをする人、メンタルを整える人、用具を整備する人など一人のアスリートを支える人は、スポーツが進化すればするほど、細分化してきました。それを一人のアスリートが自らのパフォーマンスにつなげ、戦績として残しています。「天狗になる」という言葉がありますが、オリンピックに出場するほどの選手で、ましてやその中でもトップに君臨するような選手には一人も「天狗になっている」アスリートは見当たりませんでした。（実際には、いるのかもしれませんが、テレビというメディアで取り上げられることはないのだと思います。）おそらく、天狗になれるのは、その限界だけの世界であって、世界が広がってくると、天狗など相手にされないのかもしれませんが。

競技を楽しむ

次に、私が感じた共通点は順位を争う競技ではあるけれど『楽しむ』という言葉を用いたアスリートが多かったと感じました。私の勝手な印象ですが、昔は「国の威信をかけて」という言葉で選手を鼓舞していたようなこともありましたが、今は純粹に種目に打ち込み、苦しいことはあっても、最終的には「楽しむ」という選手の姿が見ている人を魅了しているのだと思います。

みなさんはどうでしょうか。今自分が熱中し、取り組んでいることに対して周囲の方からの支援をどのように受け止めていますか。感謝の気持ちを持ち、それを伝えていきますか。そして、今自分は何かに対して「楽しむ」ことはできていますか。オリンピックという壮大なステージでなくても、この2つのことは私たちも実践していかななくてはいけないのではないのでしょうか。

3月の主な予定

詳細は各学年から配付される予定表をご確認ください

- 4日(水)②～③2, 3学年卒業式予行練習 14時00分PTA生き方講話
5日(木)専門委員会(後期最終)
6日(金)旭T:委員会報告
9日(月)月①～④ 13:40下校
10日(火)火①～④ 13時35分下校 係生徒は卒業式前日準備
11日(水)第77回卒業証書授与式 ※在校生は2学年+1学年代表生徒が参加
12日(木)木①～④ 13:55下校 放課後諸活動なし
13日(金)16時30分諸活動終了 16時45分下校
16日(月)13:55下校
18日(水)①～③1学年球技大会 全校評議会(後期最終)
19日(木)①～③2学年球技大会 16時30分諸活動終了 16時45分下校
23日(月)⑥大掃除
24日(火)②1学年集会 ⑤2学年集会 部活動なし
25日(水)令和7年度修了式 離任任式
3月26日(木)～4月6日(月) 学年末・学年始め休業



ピンクのリボン運動 (ピンクシャツデー)

2月25日(水)昨年度に引き続き、今年度も旭中学校区(旭中、旭小、橋本小、宮上小)でピンクのリボン運動を行いました。カナダの学校で少年がピンクのシャツを着ていたためにいじめられたことに抗議するために生徒たちがピンクのシャツを着用し、その意思を表したことを起源とするこの取り組みですが、旭中学校の生徒会では、福祉交流委員会が作成したピンクのリボンに、この取り組みに賛同する児童生徒一人一人がいじめ防止に向けたそれぞれの決意を記載し、左胸につけて一日を過ごしました。帰りの会では一人一人の決意を記したピンクのリボンは一枚の台紙に貼られ、各学級の大きな決意として掲示しました。「My home」をスローガンに中学生だけに留まらず、小学生や地域の方々との温かなつながりをめざす旭中学校生徒会の素敵な取り組みです。



小中交流会 (レク&部活動見学)



2月26日(木)旭中学校区小学校6年生を招いて小中交流会を行いました。旭中学校に入学してくる小学生が少しでも不安をなくせるよう、教室では生徒会役員が中心となって、初めて出会う3校の小学生とゲームを通して交流を深めました。続く、部活動見学では、小学生たちが興味のある部活動を次から次へと見学しました。各部活動では、1年生と2年生が一人でも多くの新入生の入部を期待し、元気な声掛けや様々なパフォーマンスを披露していました。4月の仮入部を前に、どの部活もはりきっていました。今回の活動を通し、中学校生活に対する新入生の不安を解消し、期待にワクワクしながら入学してくれることを願っています。